

「福祉考房」5年間の活動記録

— 社会福祉士養成課程における実践学習の試み —

かわ な まさ あき
川 名 正 昭

〈要 旨〉

現在の日本は、高齢化が急速に進むとともに障害者数も増加しており、身体的な不都合による生活のしづらさを改善するためには福祉用具が大きな役割をもつこととなる。また、地域福祉の推進ではコミュニティソーシャルワークが必要となるが、それを担う社会福祉士養成課程において福祉用具の取り扱いは極めて少ないのが現状である。そのため、養成課程におけるカリキュラム上の工夫や課外での自主活動などが必要と考える。

前報までに学生の実践学習の取り組みとして、本学「福祉考房」を紹介し、社会福祉士養成課程で学ぶ学生の福祉用具理解や実践教育の効果があつたことを述べてきた。本稿では「福祉考房」の5年間の活動を記録し、今後の活動への基盤としていきたい。

〈キーワード〉

福祉考房¹⁾ 社会福祉士養成課程 実践学習 福祉用具

I. はじめに

高齢化率や障害者数の増加が続く現在の日本において、国の求める地域における自立生活を実現するためには、福祉用具は欠かせないものである。福祉用具を取り巻く動きとして、介護保険制度の改正、コミュニティソーシャルワークにおける福祉用具の位置づけ、タブレット端末等の情報技術の福祉分野への応用の進展などが重要であると考えられる。

2012年4月1日施行の介護保険制度改正により福祉用具専門相談員に対し、利用者の心身の状況や環境、福祉用具貸与の目標と具体的なサービスの内容等を記載した福祉用具サービス計画の作成が義務付けられた。これに先駆け、一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会²⁾では、2009年に「福祉用具個別援助計画書」(図1)、2010年に「モニタリングシート」(図2)を開発し、質の高い福祉用具のサービス提供に努めている。

福祉用具貸与・販売事業所では、福祉用具専門相談員の資格を有した常勤を2名以上

は位置することが義務づけられている。今までケアマネジャーなど他職種と連携しながら福祉用具の貸与・販売を行っているが、そのためには他の専門職と情報を共有するために、『福祉用具個別援助計画を作成し、これに沿った計画の実施が必要不可欠で、選定理由を明確にし、利用者の理解を得ながら福祉用具サービスを提供することで、福祉用具専門相談員が福祉用具の「運搬人」でなく、「サービス提供者」の一員としての役割を果たしていく³⁾』ことが必要となる。

図1 福祉用具個別援助計画書

図2 モニタリングシート

大橋⁴⁾は「『地域での自立生活』を支援していくためには『ICFの視点でケアマネジメントの方法を活用する、地域を基盤としたソーシャルワーク(コミュニティソーシャルワーク)』が必要であり、それを展開できるシステムを創ることが求められている。そのICFの考え方をすすめる上で、福祉用具は欠かせないものである」。また、「福祉用具専門相談員は、社会福祉士でも制度上は有している資格となっているが、現実にはほとんど福祉用具に関する知識はなく、現場では福祉用具提供者者に丸投げになっていることが多いのではないかと危惧される状況である。」と述べている。このことは、筆者が前報までに指摘してきた社会福祉士養成課程における福祉用具に関する学習機会の不足と同様である。

近年、普及が著しいスマートフォンやタブレット端末は、一般技術を障害のある人に対しても活用でき、使うことによる恩恵が大きく、困難であった活動がむしろスムーズにできるようになる。⁵⁾ 今まで専用品として作られてきたコミュニケーションエイド(VOCA)などもタブレット端末のアプリ(ソフトウェア)として登場(図3)するなど、その活用の幅は広がり続けている。このような活用事例を社会福祉分野の学生も知る機会が必要であり、福祉工学や福祉情報技術のような内容を学ぶことも必要であると考える。



図3 VOCAの一例 トーキングエイドfor iPad⁶⁾

前報⁷⁾⁸⁾では、社会福祉士養成課程のカリキュラムにおける福祉用具の取り扱いが不足している点を指摘し、「福祉考房」の活動が福祉全般、特に福祉用具の理解に十分意義のある結果が得られたことを報告してきた。本稿では、福祉考房の5年間の活動を記録し、今後の活動の基盤としていきたい。

なお、「福祉考房」の取り組みは2008年度～2010年度の3ヵ年で私立大学等経常費補助金特別補助として採択され、現在は大学独自のプログラムとして継続運営中である。

Ⅱ. 「福祉考房」の活動内容

福祉考房を利用する活動は、自主活動、授業、サークル活動があるが、内容としては次の通りである。なお、福祉考房の設置目的、設備などについては、前報を参照いただきたい。

1. 車いす保守整備

車いす保守整備については、日常使用する車いすを安全に利用するための整備が中心で、福祉考房で引き取った車いすを教材に個々人で整備の確認や練習を行ったり、整備ボランティアに出向いたりしている。

以下に車いす保守整備に関する個々の取り組みについて説明する。

(1) 車いす保守整備講習会

株式会社カワムラサイクル横浜サービスセンター様のご協力により、保守整備講習会を実施した(図4)。参加した学生は、さらに技術を磨くため自分の苦手としている部分を質問したり、初参加の学生を経験済みの学生がサポートしたりと積極的な姿が見られた。

車いすメーカーの専門職の方から直接教えていただけるだけに、効率よく確実な整備手順、方法を知ることができ、今後の活動に大いに参考になった。



図4 車いす保守整備講習会の様子

(2) 福祉施設での車いす整備ボランティア

授業やサークル活動を通して習得した整備技術を現場で実践するために、車いす整備ボランティアも行っている。図5の様子からもわかるように、実際に使用されている車いすを点検、清掃、軽整備していく中で、車いすの傷みやすい箇所や取り扱い時の注意点なども実体験できる。また、利用者や施設職員とコミュニケーションをとることで、新たな気づきを得られることも多い。



図5 高齢者施設での車いす整備ボランティアの様子

(3) 高大連携校での体験授業

本学高大連携校で車いす保守整備の体験授業を実施した。(図6) 学生が普段練習していることを高校生に伝え、高校で実習に使用している車いすと一緒に整備した。整備内容は、後輪の空気圧チェックと虫ゴムの交換、ブレーキ調整、ステップ調整、タイヤ交換などである。

日常使用する車いすの要点検箇所、不都合がある場合の簡単な整備方法について、伝えられたと考える。



図6 高校での体験授業の様子

(4) 活動の安全性確保

車いす保守整備活動を実践するにあたり、車いすの状況を把握し、整備状態を記録するための車いす保守整備チェックシートを作成した。(図7)

また、整備技術の習得状況を確認するとともに、学生の活動目標として、福祉考房独自の車いす整備認定資格を設定した。整備項目は、車いすでトラブルを抱えやすい箇所を中心に、車いす整備の活動をしている学生たちと意見を交わし決定した。(表1)

車いす保守整備チェックシート		ver.1	
車いす番号		保守整備年月日	20 年 月 日
保守整備担当者		保守整備結果	良好・要 再整備・要 部品交換
部品	整備内容	チェック	各メモ (整備結果など)
後 車 輪	空気圧は不足していないか? (タイヤの裏を指で押す)		
	タイヤがすり減っていたり、ひびが入っていないか?		
	車輪の回転はスムーズか?		
	車輪の取り付け部にガタ、ネジの緩みはないか?		
キャスタ (前 輪)	ハンドリムの取り付け部にガタつきはないか?		
	回転はスムーズか? (髪の毛等が巻き付いていないか?)		
	ボルトの締め付けに緩みはないか?		
駐 車 プレーキ	タイヤがすり減っていたり、ひびが入っていないか?		
	キャスタ取り付け部のガタ、緩みはないか?		
介 助 プレーキ	駐車ブレーキは正常に機能するか?		
	駐車ブレーキの取り付け部にガタはないか?		
アーム	介助ブレーキは正常に機能するか?		
	ワイヤーの破損、折れ曲がり、サビはないか?		
サポート	破損やガタつきはないか?		
	調整に歪みや破損はないか?		
フット	ステップがストはしっかりと固定されているか?		
	ステップ板、フットサポート(靴)に破損はないか?		
シート	ステップの一本は正常に機能するか?		
	シートに破れ、ほつれはないか?		
フレーム	シートが固定ネジに緩みはないか?		
	列はひどくないか?		
※異常あり	フレーム全体にガタ、ゆるみはないか?		
	(異常がある場合) 正常に動作するか?		

※チェックについて ○:良好 △:要整備 ×:要部品交換

各メモ:

図7 車いす保守整備チェックシート

表1 車いす整備技術認定資格の概要

	概要	整備項目
初級	清拭と消毒 後輪の空気圧チェックと交換 その他、各部チェック	タイヤ空気調整 取り付け各部増し締め 虫ゴム、チューブ、タイヤ交換
中級	初級のチェック 日常使用における保守整備	初級の整備項目 キャスタ分解・清掃・交換 ステップ調整・交換 駐車ブレーキ調整・交換 介助ブレーキワイヤー調整・交換

2. 自助具考案・作成

自助具作成については、テクノエイド協会の「自助具ハンドブック」⁹⁾をもとに工作技術を習い、川崎市の「福祉製品ニーズ調査報告書」¹⁰⁾や「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」¹¹⁾、福祉考房独自の「福祉用具アイデアコンテスト」などのニーズを参考に、障害理解と生活しづらさの改善方法を考えることを目的に活動している。

以下に、自助具考案・作成に関する内容について説明する。

(1) 自助具作成体験

① KIS夏休み自助具作成体験セミナー

このセミナーは、川崎市経済労働局との公学連携事業のひとつであり、2009 および2010 年度の8月に実施した。かわさき基準推進協議会が主催者であり、小中学生およびその保護者が主な対象となるセミナーである。

セミナーは3部構成で、①障害者の生活しづらさから改善アイデアを考え、②ストローホルダーを実際に制作し、③夏休みの宿題として福祉用具の調査に必要なキーワードを提供する内容である。この構成については、学生たちのアイデアも盛り込み「簡単に怪我がないよう」にするには、どのような内容にすべきかを議論した。

参加した小中学生、保護者からの満足度は高く、プログラムの計画から携わってきた学生たちにとってもよい成功体験につながったものとする。



図8 自助具作成体験セミナーの様子

② 学内イベントでの取組み

毎年行われている11月の「DCU祭(本学学園祭)」、2月の「ミニたまゆり」¹²⁾で、福祉考房の担当するコーナーがある。学園祭では車いす乗車体験(図9)と自助具作成体験、福祉用具コンテストなどを行っている。また、ミニたまゆりは子どもたちが自ら仮想の街を運営して行くイベントで、福祉考房ではその中の1店舗として「ストローホルダー工場」(図10)を担当している。



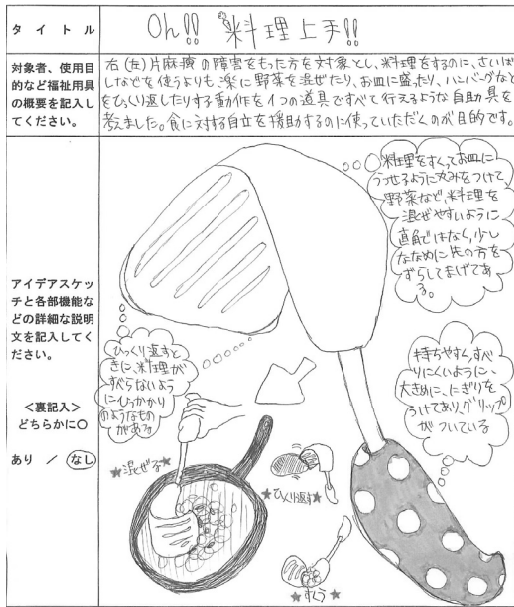
図9 学園祭での出展



図10 ミニたまゆりでの様子

(2) 福祉用具アイデアコンテスト

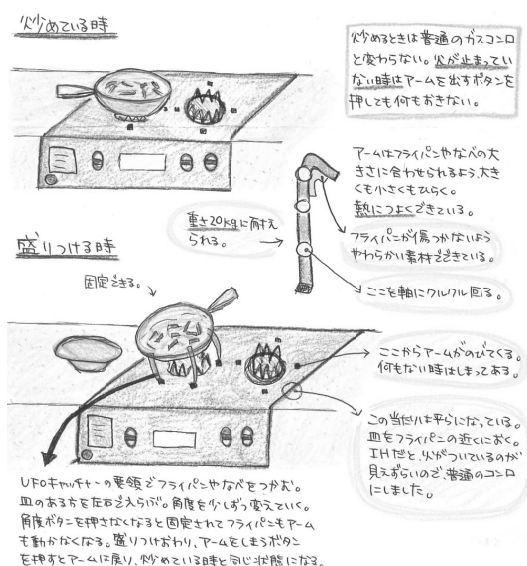
毎年、本学の学生から募集して、「福祉用具アイデアコンテスト」を実施している。本学学園祭でアイデアの展示・投票をおこない、優秀賞の結果を発表している。一般的なアイデアから多機能で簡単には実現不可能なものまでであるが、学生の考えるアイデアの新鮮さ、奇抜さに驚くことも多い。これまで、優秀賞に輝いた作品は図11のとおり。



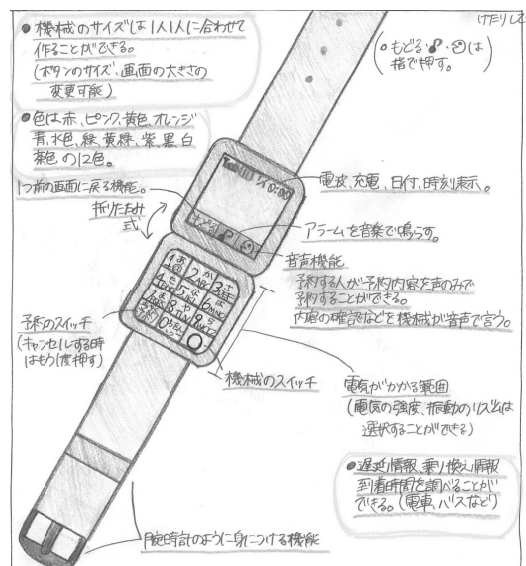
(1) 片手で混ぜる、すくうができる



(2) 片手で打ち合いをとめられるYシャツ



(3) 炒め、盛りつけがしやすい五徳



(4) 音声・振動案内型スケジュール管理

図11 福祉用具アイデアコンテストの優秀作品

(3) 福祉用具アイデアコンテスト等への応募

本学での福祉用具アイデアコンテストだけでなく、学外で実施されるアイデアコンテスト等への応募もおこなってきた。この中で、特に 2009 年度から始まった「かわさき福祉製品アイデアコンテスト」には力を入れている。第 1 回のコンテストでは、本学からの応募者多数による団体表彰(図 12)や個人の学生が優秀賞(図 13)を受章するなどの結果も残すことができた。



図 12 団体表彰で贈られた川崎市の PlantPlan という製品



図 13 個人で優秀賞を受賞した学生の表彰式

応募者の 1 人、関まゆみさん(受賞当時 地域福祉学科 3 年)は、脱ぎ履きしやすい靴のアイデア「ひとりのできるもん」¹³⁾を応募作品に、優秀賞に選ばれた。この作品は、その後製品化を視野に入れた試作を行い、秘密保持契約やスケジュール打ち合わせなど、本物の経験を積むことにもつながった。

このアイデアは、社会福祉現場実習の際に高齢の方が靴の脱ぎ履きをしにくい場面を見たことがきっかけであった。もっと手軽に脱ぎ履きできて、デザインもおしゃれなものがあればいいのという、実習現場での気づきからアイデアを発想し、それを具現化していくことができた素晴らしい実践である。

学生たちが、今後もさまざまな場面での気づきや利用者からのニーズを新鮮で重要なアイデアとして発想し、役立つ自助具や福祉製品として形づくっていけることを期待する。

3. ユニバーサルスポーツ

パラリンピックなどで知られる障害者スポーツは、一般のスポーツを障害者向けにルール変更したものだが、障害者同士でのスポーツが前提であり、健常者とともにプレーすることはなかなかできない。

一方、ユニバーサルスポーツとは、ノーマライゼーションの考え方を基にしており、

障害の有無に関係なく、一緒にできるスポーツをさし、体力、体格の違いで有利不利がおこりにくいよう配慮されているのが特徴である。

福祉考房では、まず車いすバスケットボールやポッチャ、ペタンクなどのボールゲーム、などを体験した。車いすバスケットボールは横浜ラポールで活動しているチームに協力を依頼し、練習の一部に参加させてもらった。(図 14)

学園祭では、ボールを投げてビンゴゲームを楽しむユニバーサルゲームを作成し、子どもから大人まで楽しむことができた。(図 15)



図 14 車いすバスケットボール体験



図 15 ユニバーサルゲーム

4. 授業(生活福祉工学Ⅱおよび専門演習[筆者ゼミ])

(1)生活福祉工学Ⅱ

2009 年度以降入学の 2 年生以上の選択科目として「生活福祉工学Ⅱ」を開講している。

内容は、福祉用具体験、車いす保守整備、自助具考案・製作など、福祉考房で好評価を得た内容を反映し、障害および福祉用具の理解を目的としている。特に自助具の考案・製作ではグループごと、個人ごとの課題に取り組み、アイデアを具現化するための実践を行っている。



図 16 生活福祉工学Ⅱの授業風景

(2) 専門演習／ゼミナール

専門演習は、各専門領域を深く学ぶための授業である。筆者のゼミでは福祉用具の研究もテーマの一つとしている。3年生のゼミでは福祉用具の理解と自助具の制作なども行い、4年生の卒業論文では動物に対する補助具を研究、バリアフリーマップについての研究、障害者スポーツの現状と普及への取り組み、福祉用具の現状と課題などについて、研究している。



図 17 専門演習の授業風景

5. F K C (福祉考房サークル)

2008年度から活動している学生を中心に、活動の一部を大学公認サークルとして組織し、自主的に活動している。活動内容は、車いす保守整備、自助具作成が主である。

本学の学園祭では、車いす体験や自助具作成、ユニバーサルゲームなどの体験ブースを設け、運営をおこなっている。車いす体験では、点字ブロックの設置やスロープ作成で勾配を検討するなど、バリアフリー新法や住環境に関する知識の具体化にもなった。自助具作成体験では、夏期の自助具作成体験セミナーで得た経験を活かして、安全対策や準備などを行っている。ユニバーサルゲームでは、誰もが楽しめる簡単なボールゲームを考案・作成し、来場者に体験してもらった。

Ⅲ. 活動の工夫

1. 可視化による活動計画と振り返り

活動計画は活動の中心である F K C メンバーとともに立てているが、その際はマインドマップなど情報の可視化技術を使用している。福祉分野では、わかりやすい記録を残すことも重要で、何かを目に見えるようにしていく”可視化”の手法は強力なツールとして利用できる。以下に車いす保守整備(図 18)や自助具作成体験セミナー(図 19)について、学生たちと考えたマインドマップの例を示す。

また、計画立案のためのプロジェクトマネジメントには様々な手法も開発されているが、福祉考房では4月に年度計画表を作成し、振り返りのためにマインドマップを活用している。今後、現状把握と計画の見直しなどにSWOT分析や親和図、7クロスなどを取り入れ、優先順位をつけた具体的な取り組みをしていくことも考えている。

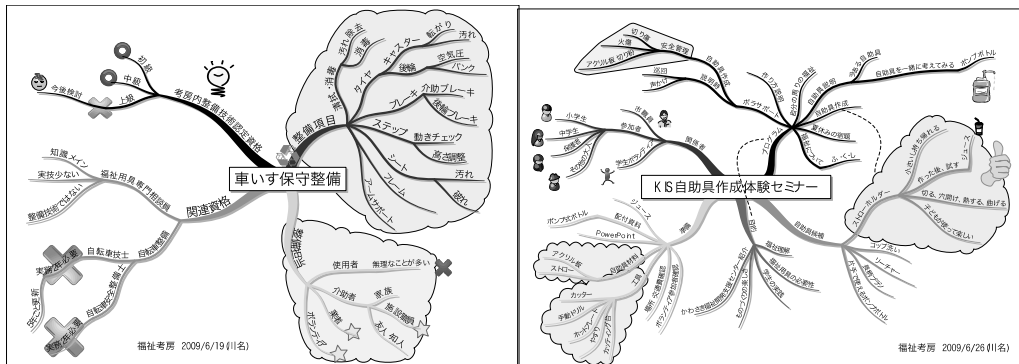


図 18 車いす保守整備のあり方検討

図 19 自助具作成体験セミナーの検討

項目	中項目	年度計画表												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
大学の1年		前期授業期間						後期授業期間						
活動基礎	活動管理	年間計画						前期振り返りと後期計画						年間振り返
	メンバー募集	新入生対象説明						後期説明勧誘						
車いす保守整備	整備練習	年間を通して、練習を行っていく												
	講習会等							車いすメーカーによる講習会						学際整
	ボランティア							主に夏期休業中のボラ						高校授業内講習会 主に春期休業中のボラ
自助具作成	通常活動	年間を通して、アイデア考案、加工などを行っていく												
	体験講習							学際整						
勉強会	福祉機器	さまざまな福祉機器についての勉強会を毎年通して計画していく。方法については、別途考えていく												
	その他	活動している人からの要望で、随時いろいろな勉強会をいく。住環境コーディネーターや福祉情報技術コーディネーターの資格取得勉強会等のもよい。												

図 20 年度計画表の例

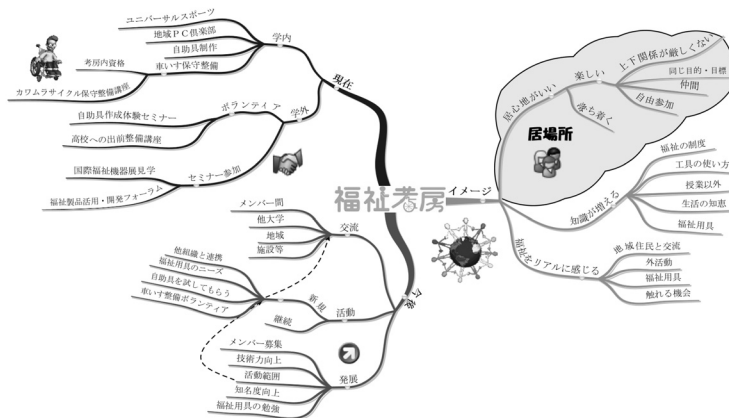


図 21 活動の振り返りにマインドマップを使用した例

2. オンラインサポート

障害や高齢、居住地が遠方であるために、大学でのパソコン教室参加や地域での活動に来ることが困難な方にも、パソコン学習の機会・質問への対応をしてきた。方法はオンラインチャットやEメールでのやりとりが中心となったが、自宅を訪問しての機器配線チェックなどのボランティア活動もあった。ICT機器の操作がひとつの課題(デジタルデバイド)になるが、操作が可能となればSNSを活用した共助なども方法として考えられる。

また、最近ではモバイル端末やモバイル回線が安定して使用できるようになり、福祉考房の活動でも学生や利用者のサポートとしてオンラインを活用している。学生が教員や学生リーダーから離れて活動する中で問題に直面した場合、自ら解決できないときなどは具体的なアドバイスができるなどのメリットがある。オンラインサポートのイメージを図 22 に示す。



【教員・学生リーダー】

教員やリーダーが画面を確認しながら、状況を把握する

【学生・活動者】

現場では携帯端末などで、教員・リーダーなどから指示を受ける

図 22 オンラインサポートのイメージ

IV. 「福祉考房」活動状況の記録

(1) のべ参加者数の推移

活動開始した 2007 年度からののべ参加者数の推移は表 2 のとおりである。

表 2 「福祉考房」のべ参加者数の推移

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	総合計
	73	501	861	1,216	746	435	3,832
勉強会	—	20	137	151	91	57	456
車いす整備	37	267	418	441	105	94	1,362
自助具製作	13	137	189	192	178	114	823
PC教室 ※ 1	10	19	20	19	—	—	68
FKCサークル ※ 2	—	—	—	394	351	153	898
その他 ※ 3	13	58	97	53	21	17	259

集計期間

2007 年度 10 月 1 日～翌 3 月 31 日 2010 年度 4 月 1 日～翌 3 月 31 日
 2008 年度 4 月 1 日～翌 3 月 31 日 2011 年度 4 月 1 日～翌 3 月 31 日
 2009 年度 4 月 1 日～翌 3 月 31 日 2012 年度 4 月 1 日～7 月 27 日

※ 1 「DCU地域PC倶楽部」の参加者は、福祉考房経由での参加。他に福祉マインド実践講座(人間福祉学部 1 年次必修授業)の参加者は含まず。

※ 2 「FKCサークル」は 2009 年 7 月発足で 2010 年度よりカウント開始。

※ 3 「その他」の参加者は、福祉用具に関する質問、福祉考房の見学・体験、就職相談など多岐にわたる。

(2) 主な活動内容

2007 年

10 月 01 日 「福祉考房」活動開始

2008 年

02 月 27 日 ハートウェル千葉メンテナンスセンター見学

04 月 07 日 正課「専門演習 I (通年)」「専門演習 II (通年)」福祉考房使用開始

05 月 29 日, 30 日 福祉考房説明会をおこない、活動者募集開始

06 月 10 日～ 車いす保守整備の勉強会を毎週火曜日に開催(前期)

- 08月06日 カワムラサイクル車いす保守整備講習会
- 08月09日 高校生向け夏期福祉総合講座 バリアフリーマップ作成補助
- 09月25日 国際福祉機器展 見学
- 10月08日～ 車いす保守整備の勉強会を毎週水曜日に開催(後期)

2009年

- 02月26日 麻生総合高校 車いす整備授業実施
- 03月20～22日 本学「ミニたまゆり」にて車いす乗車体験ブースなど設置
- 04月13日 正課「生活福祉工学Ⅱ(前期・選択科目)」開始
- 05月01日, 07日 福祉考房参加者向け 学内説明会
- 07月10日 FKC(福祉考房サークル)発足、活動開始
- 07月29日 小中学生のためのKIS自助具作成体験セミナー(1日目)
- 08月05日 小中学生のためのKIS自助具作成体験セミナー(2日目)
(於 川崎市産業振興会館)
- 08月08日 高校生対象夏期福祉総合講座バリアフリーマップ作成サポート
- 08月10日 車いす保守整備講習会
(カワムラサイクル横浜サービスセンター協力による)
- 10月05日 学内貸出用車いす配置(2号館受付)
- 11月03日 かわさき福祉製品アイデアコンテスト入選者発表会
- 11月16日 麻布大学附属渋野辺高校 バリアフリーマップ作成サポート
- 11月22, 23日 DCU祭 福祉考房展示(車いす体験、自助具作成体験、福祉用具コンテスト)

2010年

- 02月11, 13, 14日 “子どもがつくる町”ミニたまゆり”
車いす乗車体験とストローホルダー屋
- 02月12日 車いすバスケットボール体験(於 横浜ラポール)
- 02月16日 麻生総合高校 車いす保守整備授業手伝い
- 03月08日 福祉考房 福祉用具勉強会①
- 03月13日 自助具製作ボランティアグループ交流会
(於 かながわ県民センター)
- 03月15日 福祉考房 福祉用具勉強会②
- 03月20日 かながわ自助具工房 自助具製作講習会参加
- 03月22日 みんなで楽しむスポーツフェア参加(於 BumB東京スポーツ文化館)

- 04月13日 FKC(福祉考房サークル)活動開始
- 06月05日 福祉用具勉強会③
- 08月05日 第2回かわさき福祉製品アイデアコンテスト応募
- 08月07日 高校生対象夏期福祉総合講座 バリアフリーマップ作成サポート
- 08月10日 福祉用具勉強会④(卒業生による指導あり)
- 08月18日 小中学生のためのKIS自助具作成体験セミナー実施
- 09月30日 国際福祉機器展 見学ツアー(FKC企画)
- 11月20,21日 DCU祭 福祉考房展示および体験(FKC企画)

2011年

- 02月12,13日 子どもがつくる町”ミニたまゆり”で車いす体験、自助具作成
- 02月15日 高齢者施設において車いす整備ボランティア(於 東京都江戸川区内のケアセンター)
- 03月14日 麻生総合高校 車いす保守整備出前授業(東北地方太平洋沖地震で電車が動かず中止)
- 03月25日 「ジャンプアップ福祉フェア～ラクラク用具でイキイキ介護」サポート(於：川崎市中原区プレーメン通り商店街)
- 07月25日 第3回かわさき福祉製品アイデアコンテスト応募
- 11月19,20日 DCU祭 福祉考房展示および体験(FKC企画)

2012年

- 02月11,12日 子どもがつくる町”ミニたまゆり”で車いす体験、自助具作成
- 03月13日 「ジャンプアップ福祉フォーラム」サポート(於 ソリッドスクエアホール)
- 03月22日 高齢者施設において車いす整備ボランティア(於 東京都江戸川区内のケアセンター)
- 03月24,25日 「ジャンプアップ福祉フェア」サポート(川崎銀座街)
- 03月25日 みんなで楽しむスポーツフェア参加(於 BumB東京スポーツ文化館)
- 07月30日 第4回かわさき福祉製品アイデアコンテスト応募
- 09月27日 国際福祉機器展 見学ツアー(FKC企画)
- 11月17,18日 DCU祭 福祉考房展示および体験(FKC企画)

V. おわりに

高齢化率や障害者数が増え続ける中、自立生活には福祉用具が欠かせない。JISでの安

全基準ができ、福祉用具を安心して使用していくためには、福祉用具専門相談員など専門職の知識向上や他職種との連携も不可欠である。社会福祉士や介護福祉士などを有する者は、福祉用具専門相談員の資格も有するのと同様だが、本学のような社会福祉士養成課程でのカリキュラムでは福祉用具を扱う科目が少なく、社会福祉士資格を取得したとしても福祉用具に関する知識は十分ではないことが多い。前述したように、住みなれた地域社会での生活をより豊かにするためには、コミュニティソーシャルワークを担う社会福祉士のような専門職においても福祉用具の知識は必要とされるため、養成課程でのカリキュラムの工夫も必要だと考える。

福祉考房ではこの考えのもと、ボランティアとしての車いす整備技術認定資格の検討や自助具作成体験セミナーでの福祉教育に関わるなど、さまざまな試みをしてきた。前報にあるとおり福祉考房の活動に参加した学生からは、概ね満足で活動内容が学習意欲につながったり、卒後の進路決定に役立ったとの意見を多く得た。これは、自ら考えて行動する福祉考房の実践学習プログラムが効果的であったといえる。これらの活動は社会福祉士養成課程で学ぶ学生の経験となり、社会に出た際に必ず活かされるであろう。

現在、障害や高齢で引きこもりがちな方や大学までの移動が困難な方にも、パソコン学習の機会を提供し、在宅でPCを活用したオンラインコミュニティへの参加促進によるサイバーサロンなどの実践を検討し、取り組み始めている。まだ十分とは言えないものの、Webカメラやチャットなどを活用したオンラインコミュニティでのサポート、タブレット端末(iPadやiPod Touch)とモバイル通信環境(イーモバイル)を利用し、教員から出先学生へのオンラインサポートも実施した。さらに学生が安心して活動できるようなサポート体制も整えていきたい。

2007年度より開始した福祉考房の活動は、実践学習の方法として効果的であることがわかったため、授業および課外活動へと発展し、さらに地域貢献活動へと展開してきた。今後、福祉考房の活動をより多くの学生が体験できるよう、継続していきたい。

引用文献・参考文献

- 1) 福祉考房、<http://users.dcu.ac.jp/~koubou/>、(筆者管理Webサイト)
- 2) 一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会、<http://www.zfssk.com/index.php>、2012年10月1日閲覧
- 3) 「福祉用具個別援助計画書」「モニタリングシート」の改訂にあたって、一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会、<http://www.zfssk.com/youshiki/index.html>、2012年10月1日閲覧
- 4) ICFの視点を踏まえたケアマネジメントと福祉用具の普及、大橋謙策、福祉介護機器テクノプラス、日本工業出版、2012年6月、1～6ページ
- 5) 教育におけるスマートフォンやiPadを活用した障害支援、巖淵守、福祉介護機器テクノプラス、日本工業出版、2011年12月、67～71ページ
- 6) トーキングエイドCafe、株式会社ユープラス、<http://www.talkingaid.net/products>、2012年10月3日閲覧

- 7) 田園調布学園大学「福祉考房」の取り組み～社会福祉士養成課程における実践学習の試み～、川名正昭、田園調布学園大学紀要第3号、2009年3月
- 8) 田園調布学園大学「福祉考房」の取り組み(第2報)～社会福祉士養成課程における実践学習の試み～、川名正昭、田園調布学園大学紀要第4号、2010年3月
- 9) 自助具ハンドブック、公益財団法人テクノエイド協会、2007年10月
- 10) 福祉製品ニーズ調査報告、川崎市、2009年3月
- 11) 福祉用具ニーズ情報収集・提供システム、公益財団法人テクノエイド協会、<http://www.techno-needs.net/>、2012年10月1日閲覧
- 12) 子どもがつくる町ミニたまゆり、田園調布学園大学、<http://minitama.jp/>、2012年10月1日閲覧
- 13) 第1回かわさき福祉製品アイデアコンテスト(2009年度)受賞アイデア、川崎市経済労働局産業振興部新産業創出担当、<http://www.city.kawasaki.jp/280/cmsfiles/contents/0000035/35832/result2009/index.html>、2012年10月1日閲覧